



大同特殊鋼株式会社
2023年度ESG説明会
質疑応答（要旨）

開催日 2023年12月19日（火）
出席者 代表取締役副社長執行役員 西村 司
取締役 常務執行役員 岩田 龍司
執行役員 ESG推進統括部長 丹羽 哲也

Q. 2030年度の2013年度対比CO2排出量半減目標に対する見通しを教えてください。

A. 合理化による省エネは費用対効果の大きなものについてはかなりやり尽くした感があるものの、2030年度までの削減計画は達成可能と見込んでいる。次にフリー電力の購入については、全電力の70%程度で計画しており、合理化による削減と合わせた2030年度までの排出半減は達成可能と見込んでいる。考え方としてはできる限り省エネによる削減を推進し、コストがかかるCO2フリー電力の購入は極力減らしていきたいが、全体のバランスを見ながら進めていきたい。

Q. CO2フリー電力の購入は、これまで通り、従来コスト削減分を購入にあてるという方針に変わりはないか教えてください。

A. CO2フリー電力は2021年度から購入を開始しており、自助努力で取組んでいるコスト削減分の一部をCO2フリー電力の購入にあてるという考え方に変わりはなく、毎年10%ずつCO2フリー電力の購入量を増やしていくことは、十分可能であると考えている。

Q. グリーンスチールについて、23年度に製品別のCFP算定を行い、第三者認証を取得するという目標に対する現在の進捗状況を教えてください。

A. 当社製品は、非常に多品種かつ少量での生産であり、排出量自体が様々である。それをシステムで鋼種アイテム毎のCO2排出量を精緻に算出し、認証を取得しようとしている。23年度中に、まずは生産量の多い代表製品1鋼種群についての認証取得を計画しており、来年度以降にその他の製品群についても拡大していきたいと考えている。

Q. グリーンスチールについて、ユーザーから供給の要望が増加しているということだが、どのような顧客から要望が増えてきているのか教えてください。

A. 具体的に特定のユーザーからということではなく、電炉の特性や我々の取組みを踏まえた形でのCO2排出量やグリーンスチールに関する問い合わせが増えてきている。中長期的に調達ソースの多様化として、Scope3対象を減らしていきたいといった考えを持たれるユーザーもあり、目線が変わってきていると認識している。

- Q. 長期的に新断層の調達に対して障害になってくるようなことはないのか教えてほしい。
- A. 特殊鋼製造においては、品質のため高級スクラップを使わざるを得ない面があるが、これまでも低廉層の活用、配合について取り組んできた。今後、高級スクラップの発生減や輸出増から絶対量は間違いなく減ってくるので、更なる低廉層の活用に向けてどこまで使用率を増やせるか、この数年でしっかり調査し、見極めていく。
- Q. 政策保有株式の純資産比率10%が長期目標となっているが、次期中期経営計画での達成は難しいのか。現中期経営計画の3年間で約10%引き下げているが、更なる縮減に向けての考え方があれば教えてほしい。
- A. 政策保有株式の縮減については、戦略投資のポジションや位置付けなど、全体的なキャッシュアロケーションや株主還元とのバランスも含めて検討していく。26 中期期間での目標については、計画の中でしっかり方針を示したいと考えている。
- Q. 近年の労働安全災害の増加について、若年層の比率が増えてきている理由を教えてほしい。
- A. 若年層を指導する立場の管理監督者が若くなってきており、彼ら自身が安全に対して厳しく指導された経験に乏しいため、若い人たちの作業を見てその場でしっかり注意する、ということが充分に出来ていない現状があると考えている。そこで、安全感性に優れたベテラン社員に、安全伝道師として作業の恐さ、安全作業のポイントを現場で指導してもらおうスキームを取り入れている。
- Q. 自由鍛造品については、欧州での民生需要など環境的な追い風があると思われるが、採算性の確保に対するリスクマネジメントへの対応を教えてほしい。
- A. 自由鍛造品は、精力的にビジネス拡大を進めている中で、従来よりもはるかに契約オーダー数は増えていくはずで、しっかりとしたマネジメントをしなければならないと認識している。採算面では現状でも納期6ヶ月以上の製品が多いことから、納品時点での採算性がしっかり確保できる仕組みはある。一方、生産体制の面ではきちんと受注に対応できるような体制を整えていくことが競争力確保の観点から非常に重要と考えており、かねてからステップ・バイ・ステップで設備投資を行ってきた。これまで以上にそうした点でのリスクマネジメント強化を図っていきたい。

以 上